

不動産のグローバル化は止まらず

国際不動産価格賃料指数と比較 アジア不動産市場の現状

経済のグローバル化に伴い、實際化が進んでいる。近年、国内が海外進出を果たし、成長著しい目を向ける中小不動産会社も増え、アベノミクスの影響により、日本国内の不動産市場が回復し始め、来年以降は海外投資家が本格的に参入するとの情報も耳にする。不動産市場のグローバル化が本格化したといっている。本稿では、日本不動産研究所が発表した「国際不動産価格賃料指数」をもとに、アジア主要都市の不動産事情に詳しい識者に最新動向を聞いた。

アジア主要都市の不動産価格賃料指数と投資家の動向も分析

若い人口構成、膨大な労働力、さらに未開発ゆえのポテンシャルの高さ、将来的に世界経済の中心になると予想されるアジア市場。日本企業の進出も増え続けており、経済成長は今後ますます加速していくとみられている。「ものづくり」における生産分業ネットワークの分散が進み、アジア各国の相互関係は続

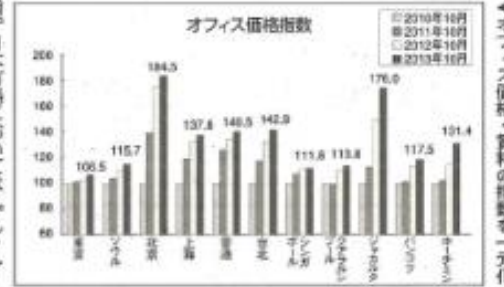
東京の安定感

インカム狙いで不動産投資成立せず



長谷川 浩介氏

共通した意見は「目回りの不動産投資は魅力が薄い」というものです。インカム・レジデンス問わず不動産価格が高騰し続けており、特に台北市内においては、一戸建てで不動産価格の暴騰が顕著で、その状態です。また、2011年8月より施行された「ぜいたく税」の低い状態です。懸念に及ぼしている台湾投資家の話では「キャピタル狙いの台湾投資家のお話を耳にします。東京を含めた海外不動産へ積極的な投資をしている彼らの低く、平米単価でい



「リーマン」以外の気象イベント、不動産投資の今以上にグローバル市場においては、プレイヤーによる競争が激化している。投資額増加の要因は、経済のグローバル化に伴い、不動産投資の増加が顕著である。投資額増加の要因は、経済のグローバル化に伴い、不動産投資の増加が顕著である。



▲台北のシンボル